

【伊勢崎市教育研究所】

英語指導研究班だより



令和7年度 研究テーマ

「CAN-DO リストを活用した言語活動の工夫と実践研究」
～小中 9 年間の系統性を意識した言語活動の実践を通して～

【今年度の主な研究の内容】

伊勢崎市は、小中 9 年間一貫した英語指導に取り組んでいるわけですが、小学校 6 年間でどんな取り組みをしているか、そして中学校にどう繋がっているのか、ご存知でしょうか。実際のところ、違う校種についてはなかなか情報が入って来ず、小中 9 年間全てを把握するのは難しい現状があります。

伊勢崎市独自のカリキュラムによる音声中心の小学校英語科から、中学校英語へスムーズな接続をするためには、小学校英語科の言語材料、言語活動、教材、学び方を中学校につなぐことが必要であると考えます。

小中 9 年間で目指す子どもの姿を共有し、9 年間を見据えて学年に応じた系統的な言語活動の工夫すること、特に小学校 6 年生から中学校 1 年生への接続に着目し、長年悩まされている「中 1 ギャップ」の原因はどこにあるのかを探るとともに、円滑な接続をするためにどうすればいいか研究し、提案していきたいと思います。

■提案内容

- ①コミュニケーション能力（英語力）を高めるための言語活動の充実を目指した実践研究
- ②CAN-DO リストの見直し（言語活動の系統性を意識して）
- ③小中連携の工夫として、異校種間の参観授業及び児童生徒の実態把握、言語活動の検討、提案

○研究協力者 伊勢崎市英語教育アドバイザー 井熊ひとみ教授（共愛学園前橋国際大学）

教えて！ 井熊先生！（共愛学園前橋国際大学教授）



そもそも、言語活動って何ですか…？



現在施行の学習指導要領において小学校から高校生までの英語学習においてすべての学びが「言語活動」を柱とすることを求められています。「言語活動」とは、実際に英語を使用して互いの考えや気持ちを伝え合うことです。校種を超えてその学びが担保され実現するためには、小中を通じて授業計画と実践の実現が望ましいと思います。

※井熊先生への質問を随時募集します。お近くの研究員にお気軽にお声がけください。